

## 2004年5月の大気大循環と世界の天候

### 大気大循環

北半球500 hPa 高度では、正・負偏差が交互に波列状に並び、比較的波長が短かった。一方、北極海は正偏差に覆われた。アラスカ付近ではリッジ場が強かった。ユーラシア大陸南部は概ね負偏差に覆われた。

日本付近および米国北部から大西洋にかけてのジェットは平年より北寄りだった。

熱帯の対流活動は、アラビア海とベンガル湾で対流活動が非常に活発であり、南インド洋中部も平年より活発だった。太平洋では、西部で平年より対流活動が活発だったが、中部では平年よりもやや不活発であった。日本の南東海上では、前月に引き続き正偏差域が見られた。太平洋赤道域東部の ITCZ (熱帯収束帯) は平年より北寄りだった。

850 hPa 流線関数および風ベクトルでは、アラビア海からベンガル湾、南シナ海にかけて低気圧性循環の偏差となった。また、南インド洋からオーストラリア西部にかけても低気圧性循環偏差となった。150°E より東では、両半球とも、高気圧性循環の偏差となった。太平洋では、ほぼ全域で東風偏差となった。

SOI (南方振動指数) は+1.2と先月から大きく符号を変えた。

### 世界の天候

- ① 東シベリアの高温
- ② 日本の高温・多雨
- ③ 西シベリアの高温

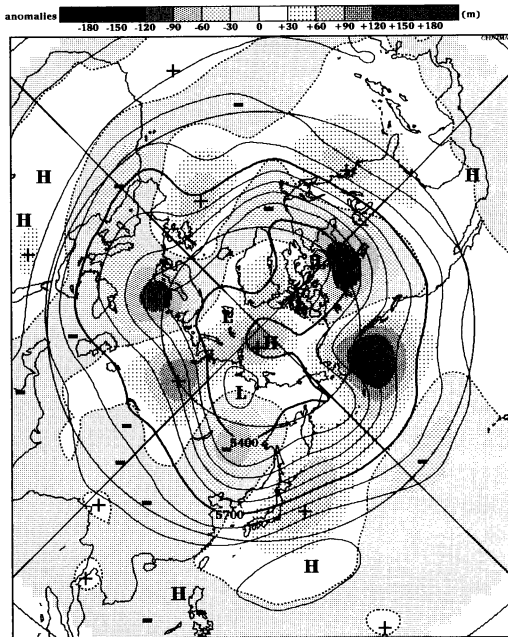
ロシアのオムスクでは月平均気温が17.0°Cとなった (平年: 11.9°C)。

- ④ マレーシアからインドネシアの高温
- ⑤ インド南部の低温・多雨
- ⑥ 黒海周辺の多雨
- ⑦ スペインの多雨
- ⑧ 北米東部の多雨
- ⑨ アラスカからチュコト半島の多雨
- ⑩ メキシコの多雨
- ⑪ カリブ海諸国からベネズエラの多雨

ドミニカ共和国とハイチの国境付近で下旬に大雨が発生し、両国あわせて1400人以上が死亡したと報じられた。また、コロンビアとベネズエラでは上旬に大雨が発生し、それぞれ2人が死亡したと伝えられた。

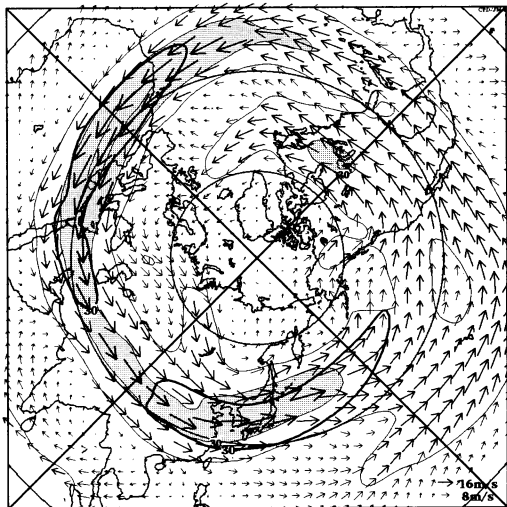
- ⑫ アルゼンチンの低温
- ⑬ アルゼンチン西部からチリ中部の多雨

(気象庁気候・海洋気象部気候情報課 中村理恵)



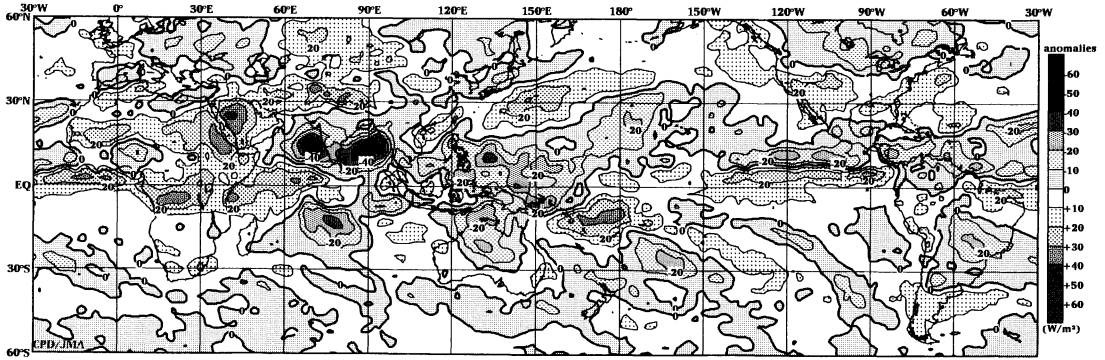
2004年5月の北半球月平均500 hPa 高度および平年偏差

等値線間隔は60 m, 偏差パターン間隔は30 m, 平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



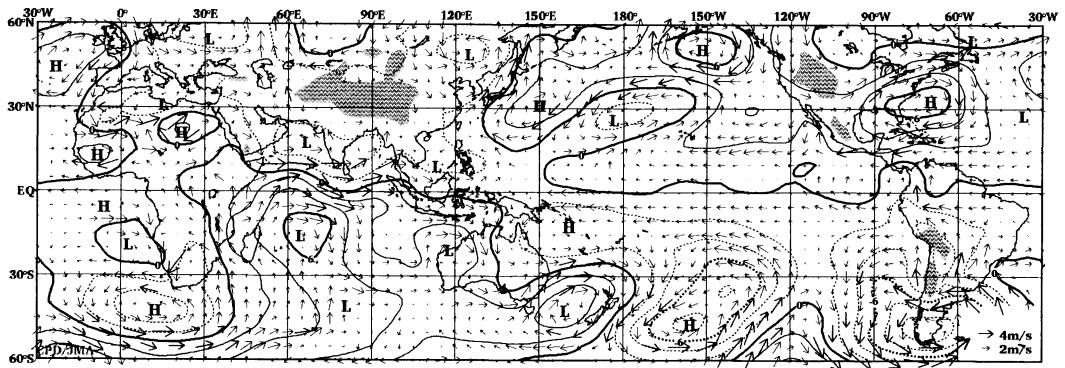
2004年5月の北半球月平均200 hPa 風速および風ベクトル

等値線間隔は15 m/s 以上。陰影部は30 m/s 以上。太実線で囲まれた領域は平年の30 m/s 以上の領域を示す。平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



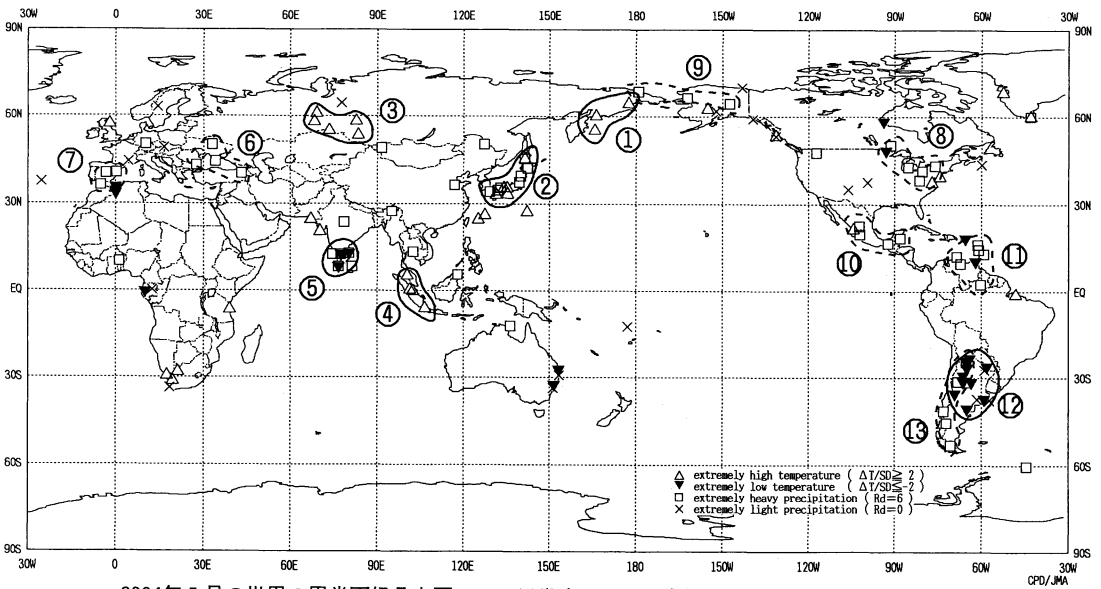
2004年5月の月平均外向き長波放射量平年偏差

等値線間隔は 10 W/m<sup>2</sup>で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。元データは CPC/NCEP/NOAA、平年値は1979~2000年のデータから作成。



2004年5月の月平均850 hPa 流線関数平年偏差及び風平年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は  $2 \times 10^6 \text{ m}^2/\text{s}$ 。平年値は1979~1993年のECMWF15年再解析データによる。



2004年5月の世界の異常天候分布図

△異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨

異常高温・低温は標準偏差の2倍以上、異常多雨・少雨は降水5分位値が6および0。図中の番号は本文中の番号と対応している。